

平成30年～令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
 自己点検報告書

団 体 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場		
施 設 名	兵庫県立尼崎青少年創造劇場		
助 成 対 象 活 動 名	“「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ” 行動計画		
助 成 期 間	5		(年間)
内 定 額	平成30年度	63,066	(千円)
	平成31年度	53,401	
	令和2年度	49,261	
	令和3年度	46,685	

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図 (概念図)

(事業名) “「観る」「知る」「学ぶ」そして「繋がる」50年へ” 行動計画

創造発信

ミッション 1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供

- ・ピッコロ劇団公演／ピッコロシアタープロデュース作品の創造と発信（新作企画、優れた作品の発掘と新演出、関西演劇人の力を結集）
- ・鑑賞劇場の継承、新企画への挑戦
（いいむろなおきマイム＝アクセシビリティ公演）
- ・東北演劇人などとの交流
- ・室内楽サロン（共催事業）＝若手プロ演奏家と協働

アウトカム

- 地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。【観点①④】
- 住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】
- 東京一極集中の中、地域におけるアーティスト活動の場を継続・提供し、人材流失防止と地域舞台芸術の活性化に資する。【観点②④】

交流連携

ミッション 2 青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮

- ・ピッコロ劇団ファミリー劇場／わくわくステージ（中学生向け）
- ・ピッコロ劇団おでかけステージ（小学生向け）
- ・シアタースタート（乳幼児向け）
- ・子どもと楽しむ落語会（ファミリー向け）
- ・子育て団体と連携したお話会（幼児向け）

アウトカム

- 地域において質の高い創造の場を確保・持続し、わが国の舞台芸術の水準向上に資する。【観点①④】
- 住民の鑑賞活動の拡大に資する。【観点③】
- 経済的な支援が必要な子ども達に鑑賞機会を提供し、社会と子どもをつないでいく。鑑賞活動の拡大にも資する。【観点②③】

地域創生

ミッション 4 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生

- ・障害をもつ人へアクセシビリティを向上
（ピッコロ劇団公演での音声ガイド、字幕。文化セミナーでの字幕。マイム公演。他の文化施設との連絡会議など）
- ・乳幼児とその保護者を対象としたシアタースタート
- ・演劇鑑賞機会の少ない地域へのアウトリーチ公演
（・ピッコロ劇団おでかけステージ、ピッコロ劇団わくわくステージ、ピッコロ劇団県内市町ホール公演）
- ・地域でのワークショップ（あつまれ！ピッコロひろば等）

アウトカム

- 障害の有無や年齢、居住地域に関わらず、芸術体験・鑑賞ができる。【観点②③】
- 各地域や団体と連携し、地域のコミュニティづくりに取り組み、創造活動が持続する体制づくりに資する。【観点③④】
- 専門家などと連携し、地域が抱える社会的課題に取り組み、その効果を検証し、発展させる。【観点②④】
- 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業効果の波及に資する。【観点②④】

人材育成

ミッション 3 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割

- ・ピッコロ演劇学校/舞台技術学校（H30：開館40周年記念祭も開催）
- ・ピッコロ劇団員によるアウトリーチ指導（ワークショップなど）
- ・ピッコロフェスティバル
- ・ピッコロ実技教室（ちゃっと！狂言等）
- ・ピッコロシアター文化セミナー

アウトカム

- 地域において学び体験する場を確保・持続し、将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材の育成に資する。【観点①②④】
- 市民の文化活動を支援することで文化の裾野を広げ、鑑賞者・活動者の拡大に資する。【観点③】
- 気軽に無料で一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への関心が高まり、興味を拓き、鑑賞者の拡大に資する。【観点③】

(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ピッコロ劇団第70回公演 「スカパンの悪だくみ」	5.23(日)、28(金)～ 30(日)、6.1(火)	演目＝「スカパンの悪だくみ」原作 ＝モリエール/演出＝孫 高宏(ピッ コロ劇団員)/出演＝ピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	703※
2	ピッコロ劇団第71回公演 「いらないものだけ手に 入る」	10.9(土)、10(日)、 12(火)～14(木)	演目＝「いらないものだけ手に入る」 作・演出＝土田英生(MONO)/出 演＝ピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	1,028
3	ピッコロ劇団第72回公演 ／ピッコロシアタープロ デュース「脚気にしやがれ！～近代日本最悪の病 「脚気」奮闘記～」	2.18(金)～20(日)	演目＝「脚気にしやがれ！～近代日 本最悪の病「脚気」奮闘記～」作・ 演出＝G 2/出演＝ピッコロ劇団員 他	目標値	2,400
		県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	1,075※
4	ピッコロ劇団ファミリー 劇場「グリム兄弟！～み んなのメルヘン きかせて ダンケ～」	8.7(土)～8(日) 12.25(土)～26(日)	演目＝「グリム兄弟！～みんなのメ ルヘン きかせてダンケ～」/作＝早 船聡(サスペンデッツ)／演出＝平 井久美子(ピッコロ劇団員)/音楽＝ 園田容子/出演＝ピッコロ劇団員	目標値	2,832
		ピッコロシアター 大ホール 県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	1,715※
5	ピッコロ劇団 オフシア ターVol.37「もういちど、 鴨を撃ちに」	4.9(金)～11(日)	演目＝「もういちど、鴨を撃ちに」 原作＝A.ヴァムピーロフ「鴨獵」 /台本・演出＝島守辰明(ピッコロ劇 団員)/出演＝ピッコロ劇団員	目標値	300
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	232※
6	ピッコロシアター鑑賞劇 場いいむろなおきマイム カンパニー「オリンピアの 夢」	4.16(金)～17(土)	演目＝「オリンピアの夢」作・演出 ＝いいむろなおき/出演＝いいむろ なおきマイムカンパニー	目標値	673
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	368※
7	ピッコロシアター鑑賞劇 場 シアタースタート 劇団風の子九州「ぴーかぶ ー」	9.10(金)	演目＝「ぴーかぶー」作＝中島研、 川島二郎/構成演出＝中島研/出演＝ 劇団風の子九州 *予定していた「ハイハイ、ごろ～ ん。」(0歳向け)の上演は中止。「ぴ ーかぶー」のみ2回上演に変更。	目標値	140
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	88※

8	ピッコロ演劇学校	4～3月	本科(86講義)研究科(81講義) 前期発表会10.30(土)31(日) 合同卒業公演3.5(土)6(日)	目標値	60
		ピッコロシアター		実績値	48※
9	ピッコロ舞台技術学校	4～3月	100講座/合同卒業公演3.5(土) 6(日)	目標値	30
		ピッコロシアター 県立芸術文化センター		実績値	25※
10	2021 ピッコロフェスティバル	7.29(木)～8.29(日)	県民参加企画(演劇(小・中・高校演劇部)バレエ・モダンダンス)/ 地域団体連携企画(人形劇フェスタ、 バリアフリーコンサートほか)	目標値	2,500
		ピッコロシアター		実績値	2,317※
11	あつまれ!ピッコロひろば	4～3月	ピッコロ劇団員2～5名が県内各地 (主に小学校)に出向き行う演劇表現 ワークショップ	目標値	380
		養父市立建屋小学校 ほか		実績値	297※
12	おでかけステージ「学校ウサギをつかまえろ」	10.27(水)、10.29(金)	小学生を対象にした演劇舞台普及事業、 小学校の体育館で開催 演目＝「学校ウサギをつかまえろ」 原作＝岡田 淳/台本＝眞山直則(ピッコロ劇団員) 演出＝吉村祐樹(ピッコロ劇団員)/ 出演＝ピッコロ劇団員	目標値	1,200
		上郡町立上郡小学校 南あわじ市立松帆小学校		実績値	433※
13	中学生のための演劇鑑賞体験事業ピッコロわくわくステージ5月期「スカパンの悪だくみ」11月期「グリム兄弟!～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」	5.25(火)～6.4(金)、 6.11(金) 11.26(金)～12.3(金)	中学生を対象とした演劇舞台普及事業。 5～6月にピッコロシアター及び県内の丹波地域で、 11～12月にピッコロシアターで開催 演目＝①「スカパンの悪だくみ」 ②「グリム兄弟!～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」 ①ピッコロ劇団第70回本公演 ②同ファミリー劇場公演演目	目標値	6,000
		ピッコロシアター 大ホール ライフピアいちじま 大ホール		実績値	2,365※
14	ピッコロシアター文化セミナー<99><100>	<99>6.5(土) <100>7.18(日)	<99>狂言師 三世 茂山千之丞さん に聞く「未来の狂言に向けて」 <100>ジャズピアニスト 小曽根 真さんに聞く「音楽の力」	目標値	673
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	328※
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席「子どもと楽しむ落語会」	3.13(日)	内容＝落語三席「長短」「動物園」 「皿屋敷」・落語の解説 出演＝桂吉弥、桂そうば、桂米輝	目標値	336
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	183※

16	ピッコロ実技教室 ①「ちょっと！狂言～入門編～」 ②「まわし読み新聞&演劇ワークショップ〈壁新聞を演じてみる〉」	①8.14(土)、15(日) ②7.29(木)	①講師＝大蔵流狂言方善竹隆司・善竹隆平/内容＝能舞台・狂言の所作や発声、装束着付の解説、舞台上での練習、試演会、講評、修了証授与 ②講師＝陸奥賢(まわしよみ新聞考案者)・本田知恵子(ピッコロ劇団)/内容＝壁新聞づくり・演劇ワークショップ・作品発表	目標値	50
		ピッコロシアター 大ホール ピッコロシアター 小ホール		実績値	36※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		目標値	実績値			
1	兵庫県立ピッコロ劇団 第67回公演 「スカパンの悪だくみ」	2年5月22～24, 30, 31日 (中止)※	大ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	1,728
					実績値	—※
2	兵庫県立ピッコロ劇団 第68回公演 「ホクロのある左足」	2年10月2～4, 6, 7日	大ホール	作＝別役 実／演出＝岩松 了 出演＝ピッコロ劇団員 (別役メモリアル公演)	目標値	1,728
					実績値	875※
3	兵庫県立ピッコロ劇団 第69回公演／ピッコロシ アタープロデュース 「波の上のキネマ」	3年2月19～21日	県立芸術文化センター 阪急中ホール	原作＝増山 実「波の上のキネマ」 /脚本・演出＝岩崎正裕(劇団太陽 族)/出演＝ピッコロ劇団員 他	目標値	2,400
					実績値	1,102※
4	ピッコロ劇団ファミリー 劇場「とっととといてよ！ シャーロック・ホームズ」	2年8月15, 16日 2年12月19, 20日	8月：東りいたみホール 12月：県立芸術文化セン ター阪急中ホール	作＝早船 聡(サスペンデッズ) 演出＝平井久美子(ピッコロ劇団員) 出演＝ピッコロ劇団員	目標値	3,312
					実績値	1,270※
5	ピッコロ劇団オフシアター Vol.36「もういちど、鴨 を撃ちに」	2年4月10～12日 (中止)※	中ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	400
					実績値	—※
6	ピッコロシアター鑑賞劇 場 方丈の海2021プロ ジェクト「方丈の海」	3年3月20～21日 (中止)※	大ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	200
					実績値	—※
7	ピッコロシアター鑑賞劇 場 シアタースタート 民族芸能アンサンブル若 駒「はるなつあきふゆ あ そぼあそぼ」	3年3月12日	中ホール	構成・演出＝つげくわえ／出演＝ 民族芸能アンサンブル若駒	目標値	200
					実績値	111※
8	ピッコロ演劇学校	2年9月～3年3月	大・中・小ホール	本科、研究科 半年間の講義・実習、成果発表会 (講師：ピッコロ劇団員ほか)	目標値	60
					実績値	38※
9	ピッコロ舞台技術学校	2年9月～3年3月	大・中・小ホール	半年間の講義・実習、成果発表会 (講師：舞台美術専門家ほか)	目標値	30
					実績値	15※
10	体感！ピッコロシアター	2年11月29日 (中止)※	大・中・小ホール	新型コロナウイルス感染症の影響 で事業を中止した。	目標値	300
					実績値	—※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
11	あつまれ！ピッコロひろば	2年 6月9,23日、7月3日、 10月8,19日	ピッコロ劇団員による上演指導、 演劇ワークショップ	目標値	500
		養父市立建屋小学校 NPOやんちゃんこ		実績値	256※
12	おでかけステージ 「学校ウサギをつかまえる」	2年10月15,16,22日	原作＝岡田淳/台本＝眞山直則(ピッコロ劇団員)/演出＝吉村祐樹(ピッコロ劇団員)/出演＝ピッコロ劇団員	目標値	5～6小学校
		大ホール 上郡町立高田小学校		実績値	2小学校 ※
13	中学生のための演劇鑑賞 体験事業ピッコロわくわく ステージ 5月期「スカパンの悪だくみ」、 11月期「とっととといてよ！ シャーロック・ホームズ」	5月期：2年5月23日～ 6月2日(中止)※ 11月期：2年11月25日 ～12月2日	5月期：新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。 11月期：事業番号4に同じ	目標値	5,500
		大ホール		実績値	5月期-※ 11月期 1,602※
14	ピッコロシアター文化セミナー<97><98>	<97>2年6月13日 (中止)※ <98>3年1月14日	<97>新型コロナウイルス感染症の影響で事業を中止した。 <98>出演＝三林京子(俳優)	目標値	632
		<98>大ホール		実績値	<97> -※ <98> 125※
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席「子どもと楽しむ落語会」	3年3月28日 (助成対象から除外)	年度末での開催となり年度内に収支の確定が困難であることから、 交付申請前に取り下げた。	目標値	366
		大ホール		実績値	—
16	ピッコロシアター実技教室 「ちゃっと！狂言」	2年5月5,6,9,10日 (中止)	講師との日程調整がつかなかったため、 交付申請前に取り下げた。	目標値	35
		中ホール		実績値	—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	兵庫県立ピッコロ劇団 第64回公演 「銭げば！」	5.24(金)～6.2(日)	演目＝「銭げば！」／原作＝モリエール「守銭奴」／台本・演出＝岡部尚子(空晴)／出演＝ピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	1,205
2	兵庫県立ピッコロ劇団 第65回公演 「ブルーストッキングの 女たち」	10.4(金)～9(水)	演目＝「ブルーストッキングの 女たち」／作＝宮本研／演出＝ 稲葉賀恵(文学座)／出演＝ピッ コロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター 大ホール		実績値	1,354
3	兵庫県立ピッコロ劇団 第66回公演 ピッコロシアターフェスティバル 「夢をみせてよ」	2.28(金)～3.1(日)	演目＝「夢をみせてよ」／作＝岡 部尚子(空晴)／演出＝内藤裕敬 (南河内万歳一座)／出演＝ピッ コロ劇団員ほか	目標値	2,400
		兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	1,406
4	ピッコロ劇団ファミリー劇場 「歌うシンデレラ」	①8.3(土)～4(日) ②12.21(土)～22(日)	演目＝「歌うシンデレラ」／作＝ 別役 実／演出＝吉村祐樹(ピッ コロ劇団員)／出演＝ピッコロ 劇団員 ②はオーディションによる子ど も達が参加	目標値	2,832
		① ピッコロシアター 大ホール ②兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	2,512
5	兵庫県立ピッコロ劇団 オフシアターVol.35 「炎の人-ゴッホ小伝-」	4.12(金)～14(日)	演目＝「炎の人-ゴッホ小伝-」/ 作＝三好十郎／演出＝眞山直則 (ピッコロ劇団員)／出演＝ピッ コロ劇団員	目標値	340
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	432
6	SENDAI 座☆プロジェクト2019 「十二人の怒れる男」	12.6(金)～7(土)	演目＝「十二人の怒れる男」／作 ＝レジナルド・ローズ／翻訳・演 出＝宮島春彦／出演＝榎渡宏嗣 ほか	目標値	240
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	197
7	ピッコロシアター鑑賞劇場 シアタースタート てんたん人形劇場 「たったか たったか たったかた」	5.24(金)	演目＝「たったか たったか たったかた」／出演＝てんたん 人形劇場	目標値	200
		ピッコロシアター 中ホール		実績値	181
8	ピッコロ演劇学校	4.24(水)～3.8(日)	本科(96講義)・研究科(93講義) 中間発表会 10.26(土)27(日)、 11.2(土)3(日) 合同卒業公演 3.7(土)8(日)	目標値	68
		ピッコロシアター		実績値	68
9	ピッコロ舞台技術学校	4.24(水)～3.8(日)	延べ107講義 中間発表会 10.26(土)27(日)、 11.2(土)3(日) 合同卒業公演 3.7(土)8(日)	目標値	30
		ピッコロシアター		実績値	24
10	2019 ピッコロフェスティバル	7.25(金)～8.25(日)	県民参加企画(演劇(小・中・高、 大学・一般)、パレ・モンダンほ か)／地域団体連携企画(人形劇 フェスタ、バリアフリーコンサートほか)など	目標値	7,000
		ピッコロシアター		実績値	5,252
11	あつまれ！ピッコロひろば	5.7(火)～3.22(日)	ピッコロ劇団員2～5名が県内 各地(主に小学校)に出向き行う 演劇表現ワークショップ	目標値	900
		小学校、NPO法人等		実績値	460

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
12	おでかけステージ 「星のキャンタータ」	10.17(木)、11.8(金)、 11.12(火)	小学生を対象にした演劇舞台普及事業、小学校の体育館で開催 演目＝「星のキャンタータ」／原作＝三木卓／台本・演出＝原竹志(ピッコロ劇団員)／出演＝ピッコロ劇団員	目標値	6 小学校
		小学校体育館		実績値	4 小学校 1,775
13	中学生のための演劇鑑賞体験(ピッコロ劇団公演)事業 ピッコロわくわくステージ ①「銭げば!」 ②「歌うシンデレラ」	①5.25～6.14 ②11.26～12.3	中学生を対象とした演劇舞台普及事業。5～6月にピッコロシアター及び県内の北播磨/西播磨地域で、11～12月にピッコロシアターで開催 演目＝①「銭げば!」 ②「歌うシンデレラ」 ①ピッコロ劇団第64回公演演目 ② 同ファミリー劇場公演演目	目標値	—
		・ピッコロシアター大ホール(①②) ・小野市うるおい交流館エクラホール(①) ・太子町立文化会館あすかホール(①)		実績値	5,728
14	ピッコロシアター文化セミナー<95><96>	<95>8.10(土) <96>9.7(土)	<95>平野亮一さんに聞く(バレエダンサー・英国ロイヤルバレエ団プリンシパル) <96>笑福亭仁智さんに聞く(落語家・上方落語協会会長)	目標値	632
		ピッコロシアター大ホール		実績値	749
15	ピッコロシアター鑑賞劇場 ピッコロ寄席へ行こう! 「子どもと楽しむ落語会」	3.15(日)→中止	(当初の出演予定：桂吉弥ほか)	目標値	370
		—	※中止はウイルス禍の影響	実績値	—
16	ピッコロシアター実技教室 「ちゃっと!狂言」	7.25(木)～28(日)	講師＝大蔵流狂言方 善竹隆司ほか／主な内容＝狂言の解説、台本読み・所作の稽古、成果発表会(演目＝「以呂波」「柿山伏」)	目標値	35
		ピッコロシアター中ホール		実績値	22
17	バリアフリー対応	①8.3(土)ファミリー劇場 ②11.27(水)、29(金) わくわくステージ ③2.28(金)～3.1(日) 劇団公演「夢をみせてよ」	鑑賞サポートの主な内容 ①字幕付き公演、手話・筆談対応 ②字幕付き公演、音声CD貸出、点字パンフ作成 ③音声ガイドサービス、点字パンフ作成、補助犬ユーザーの鑑賞、手話・筆談対応	目標値	—
		①②ピッコロシアター大ホール ③兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		実績値	—

(5) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	兵庫県立ピッコロ劇団第61回公演「蒲団と達磨」	7/18(水)、19(木)、20(金)、21(土)、22(日)	演目＝「蒲団と達磨」／スタッフ：作・演出＝岩松了(ピッコロ劇団代表)ほか／出演＝森好文ほかピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター大ホール		実績値	1,441
2	兵庫県立ピッコロ劇団第62回公演「小さなエイヨルフ」	11/2(金)、3(土)、4(日)、6(火)、7(水)	演目＝「小さなエイヨルフ」／スタッフ：作＝イプセン、演出＝鶴山仁(文学座)ほか／出演＝岡田力ほかピッコロ劇団員	目標値	1,728
		ピッコロシアター大ホール		実績値	1,004
3	兵庫県立ピッコロ劇団第63回公演ピッコロシアタープロデュース「マンガの虫は空こえて」	(H31) 2/15(金)、16(土)、17(日)	演目＝「マンガの虫は空こえて」／スタッフ：作＝島守辰明(ピッコロ劇団員)、演出・脚本監修＝岩崎正裕(劇団太陽族)／出演＝三坂賢二郎ほかピッコロ劇団員他	目標値	2,400
		兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール		実績値	1,755
4	ピッコロ劇団ファミリー劇場「さらばドラキュラ」	①8/4(土)・5(日)②12/15(土)・16(日)	演目＝「さらばドラキュラ」／スタッフ：作＝早船聡、演出＝平井久美子(ピッコロ劇団員)／出演＝堀江勇氣ほかピッコロ劇団員、オーディションによる子どもたち(②のみ)	目標値	2,592
		①ピッコロシアター大ホール②兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール		実績値	2,436
5	兵庫県立ピッコロ劇団オフシアターVol.34「umami」	4/6(金)、7(土)、8(日)	演目＝「umami」／スタッフ：作＝早船聡、演出＝吉村祐樹(ピッコロ劇団員)／出演＝菅原ゆうきほかピッコロ劇団員	目標値	480
		ピッコロシアター中ホール		実績値	442
6	兵庫県立ピッコロ劇団オフシアターVol.35	(事業を中止、変更申請承認)		目標値	480
				実績値	
7	ピッコロシアター鑑賞劇場いいむろなおきマイムカンパニー「オリンピアの夢」	10/6(土)、7(日)	演目＝「オリンピアの夢」／作・演出＝いいむろなおき／出演＝いいむろなおきカンパニー	目標値	650
		ピッコロシアター大ホール		実績値	739
8	SENDAI座☆プロジェクト2018「十二人の怒れる男」	11/9(金)、10(土)、11(日)	演目＝「十二人の怒れる男」／作＝レジナルド・ローズ、翻訳・演出＝宮島春彦／出演＝樋渡宏嗣ほか	目標値	240
		ピッコロシアター中ホール		実績値	292
9	ピッコロシアター鑑賞劇場シアタースタートくわえ・ばべっとステージ「かくれんぼしてるのだ～れ」	5/10(木)	演目＝「かくれんぼしてるのだ～れ」／作・演出・出演＝つげくわえ	目標値	200
		ピッコロシアター中ホール		実績値	182
10	ピッコロ演劇学校	4/25(水)～(H31)3/10(日)	本科・研究科(各のべ約90講義)／中間発表会10/27(土)28(日)、11/3(土)4(日)／合同卒業公演3/9(土)10(日)	目標値	60
		ピッコロシアター		実績値	51
11	ピッコロ舞台技術学校	4/25(水)～(H31)3/10(日)	のべ108講義／中間発表会10/27(土)28(日)、11/3(土)4(日)／合同卒業公演3/9(土)10(日)	目標値	30
		ピッコロシアター		実績値	30
12	ピッコロシアター開館40周年記念祭「いつもここから、これからもずっと～地域と生きる劇場を目指して～」	8/11(土・祝)	体験型事業(舞台体験ひろば、ワークショップなど)／記念シンポジウム(出演：岩松了氏(ピッコロ劇団代表)、平田オリザ氏ほか)	目標値	600
		ピッコロシアター		実績値	800

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	2018 ピッコロフェスティバル	7/24(日)～9/4(土)	県民参加企画(演劇(小・中・高、大学・一般)、パレ・モダンほか)／地域団体連携企画(人形劇フェスタ、バリアフリーコンサートほか)など	目標値	8,000
		ピッコロシアター		実績値	5,886
14	あつまれ!ピッコロひろば	5/7(月)～(H31)3/16(土)	ピッコロ劇団員2～5名が県内各地(主に小学校)に出向き行う、演劇表現ワークショップ。24回開催。	目標値	—
		県内12箇所で開催		実績値	755
15	おでかけステージ「星のカンタータ」	10/3、4、16、18、24	小学生を対象にした演劇舞台普及事業。3小学校の体育館とともに尼崎市内2小学校向けにピッコロシアター大ホールで開催。演目＝「星のカンタータ」	目標値	8小学校
		ピッコロシアター及び県内3小学校		実績値	5小学校(2,613人)
16	中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ「さらばドラキュラ」	①5/23～6/1・11/21～29②6/13③6/16	中学生を対象とした演劇舞台普及事業。ピッコロシアターで5～6月・11月に、県内の西播磨地域で6月に開催。演目＝「さらばドラキュラ」	目標値	6,000
		①ピッコロシアター大ホール②たつの市総合文化会館③宍粟市山崎文化会館		実績値	5,660
17	ピッコロシアター文化セミナー<93><94>	<93>6/30(土)／<94>10/20(土)	内容＝<93>：岩松了さん(兵庫県立ピッコロ劇団代表)に聞く「日常に在る演劇」／<94>：通崎睦美さん(木琴奏者)に聞く「1935をめぐって」	目標値	632
		ピッコロシアター大ホール		実績値	692
18	ピッコロシアター鑑賞劇場ピッコロ寄席へ行こう!「子どもと楽しむ落語会」	(H31)3/17(日)	内容＝お囃子体験、落語の楽しみ方、落語三席(「花筏」、「寿限無」、「狸の糞」)／出演＝桂吉弥、桂弥っこ、桂ひろば	目標値	370
		ピッコロシアター大ホール		実績値	391
19	ピッコロシアター実技教室「ちょっと!狂言」	7/26(木)～29(日)	講師＝大蔵流狂言方 善竹隆司・善竹隆平／主な内容＝狂言についての解説、台本読み・所作の稽古、成果発表会(演目＝「土筆」「口真似」)	目標値	35
		ピッコロシアター		実績値	26
20	バリアフリー対応	①6/30(土)文化セミナー／②7/21(土)劇団公演「蒲団と達磨」／③8/5(日)ファミリー劇場／④10/6(土)鑑賞劇場「オリンピックの夢」／⑤11/30(金)わくわくステージ	①聴覚障害者の鑑賞サポート(字幕、手話ほか)②聴覚障害者の鑑賞サポート(ポータブル字幕器貸出ほか)③視覚障害者の鑑賞サポート(音声ガイド、点字チラシほか)④聴覚障害者の鑑賞サポート(解説パンフレットほか)⑤視覚障害者の鑑賞サポート(音声ガイド、点字チラシほか)	目標値	—
		ピッコロシアター大ホール		実績値	54

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

兵庫県では、「芸術文化立県ひょうご～芸術文化で人や地域を元気にし、未来を開く社会の実現～」を基本目標とする兵庫県芸術文化振興ビジョンを策定し、芸術文化の振興に取り組んでいる。これを踏まえ、兵庫県立尼崎青少年創造劇場では、昭和53年にオープンし、40年を超える歴史で培ってきた《劇場・劇団・学校》を持つ強みを活かし、この強みを連関させ、創造発信→交流連携→人材育成→地域創造というプラスの循環で、「地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会」をつくることを目指し、

- ① 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞劇場の提供(創造発信)
 - ② 青少年、子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮(交流連携)
 - ③ 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割(人材育成)
 - ④ 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生(地域創生)
- の4つのミッションを掲げ、事業を実施した。

なお、令和2年度及び3年度には、新型コロナウイルスの感染拡大により、一定期間の臨時休館や客席数の制限、感染予防上の制約などがあったものの、コロナ禍だからこそ、可能な限り生の舞台芸術を届け、また、学習機会を提供する必要があるとの認識のもと、感染対策を徹底し、工夫して事業を実施した。

また、コロナ禍において、劇団公演のアーカイブ配信など新たな取組を展開した。

1 意欲的で質の高い舞台芸術の創造と鑑賞機会の提供【創造発信】

平成30年度

兵庫県立ピッコロ劇団は7事業を実施(本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ5小学校等2,613人、わくわくステージ43中学校5,660人)。ピッコロ劇場鑑賞劇場として、上質な作品の上演を通じて地域における演劇鑑賞機会を提供、演劇鑑賞人口の拡大に努めた。劇団員によるワークショップや地域での演劇指導などを通じて舞台芸術に広く親しんでもらう機会提供など、県立劇団ならではの活動の充実に努めた。

令和元年度

兵庫県立ピッコロ劇団は7事業を実施(本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ4小学校1,775人、わくわくステージ47中学校5,728人)。上質な作品の上演を通じて地域における演劇鑑賞機会を提供、演劇鑑賞人口の拡大に努めた。また、ピッコロシアター鑑賞劇場として、プロによる演劇・落語・音楽などの舞台芸術鑑賞機会の提供のほか、東日本大震災を機に始まった東北演劇人との交流による上演機会を継続する、特徴的な取組を行った。

令和2年度

兵庫県立ピッコロ劇団は5事業を実施(本公演1、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、おでかけステージ2小学校743人、わくわくステージ16中学校1,602人)。また、ピッコロシアター鑑賞劇場として地域における演劇鑑賞機会を提供した。

兵庫県域の新型コロナ緊急事態宣言に基づく臨時休館(R2.4.8～5.31)及び劇場本館の改修工事に伴う休館(R2.7.1～8.31)の約4カ月の休館となったが、コロナ禍での制約を受けながら、本来の姿での劇場事業の維持に最大限努めた。三密の回避をはじめとした感染防止対策の徹底を図るとともに、いずれの事業とも観客数・事業参加者数を半数以下に抑えて実施。県立ピッコロ劇団公演にあたっては、劇団員及び関係スタッフに対して事前にPCR検査を実施するなど万全の体制で臨んだ。

しかし、一部公演で中止を余儀なくされたり、多くの公演で入場者数が目標値を下回る事となった。

令和3年度

兵庫県立ピッコロ劇団は客席数制限を行いながら、7事業を実施(本公演2、プロデュース公演1、ファミリー劇場1、オフシアター1、おでかけステージ2小学校433人、わくわくステージ22中学校2,365人)。上質な作品の上演を通じて地域における演劇鑑賞機会を提供、演劇鑑賞人口の拡大に努めた。

また、ピッコロシアター鑑賞劇場として、演劇・落語・音楽などの舞台芸術鑑賞機会を提供したが、4月～9月については、入場者数を50%以下に抑制し、10月以降は、最前列の1～2列を空席にし、定員を上限として対応した。

2 青少年・子どもを育み、地域が息づくひろばとしての機能の発揮【交流連携】

平成30年度

シアタースタート(乳幼児・家族)182人、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)755人、おでかけステージ(小学生)2,613人、わくわくステージ(中学生)5,660人など、対象の世代毎に特色ある公演を実施。企業、民間NPOや県(阪神南県民センター)と連携し、経済的支援が必要な家庭や子ども食堂を利用する子どもたち349人をピッコロ劇団ファミリー劇場等へ招待した。

令和元年度

シアタースタート(乳幼児・家族)181人、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)460人、おでかけステージ(小学生)1,775人、わくわくステージ(中学生)5,728人など、対象の世代毎に特色ある公演(鑑賞体

験)を実施。また、企業、民間NPOや県(阪神南県民センター)と連携し、経済的支援が必要な家庭やこども食堂を利用する子どもたちをピッコロ劇団ファミリー劇場へ招待するなど、家庭の経済環境に関わりなく演劇の楽しさを体験できる機会を提供(337人)した。

令和2年度

シアタースタート(乳幼児・家族)111人、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)256人、おでかけステージ(小学生)2校743人、わくわくステージ(中学生)1,602人など、世代毎に特色ある鑑賞体験事業を実施。企業や県(阪神南県民センター)とも連携し、経済支援が必要な家庭やこども食堂を利用する子どもたちをファミリー劇場等へ招待する(232人)等経済環境に関わりなく演劇の楽しさを体験できる機会を提供した。

新型コロナ感染拡大に伴い、わくわくステージの学校参加の取り止めなど、各事業において参加者が減少した。

令和3年度

シアタースタート(乳幼児・家族)88人、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)297人、おでかけステージ(小学生)433人、わくわくステージ(中学生)2,365人など、対象の世代毎に特色ある公演を実施。企業や民間NPOと連携し、経済的支援が必要な家庭やこども食堂を利用する子どもたち180人をピッコロ劇団ファミリー劇場等へ招待した。

平成3年度においても、上半期は、席数を制限しており、わくわくステージ(中学生)では、平成2年度に比べ減少したものの、13校が観劇を中止するなど、事業実施に影響があった。

3 人材育成や芸術活動の裾野を広げていく拠点としての役割【人材育成】

平成30年度

演劇学校本科32名・研究科15名、舞台技術学校26名が修了、舞台芸術活動を通して地域づくりに貢献できる人材の育成を推進。ピッコロシアター開館40周年記念感謝祭では、地域と共に歩んできた劇場として、バックステージツアーや体験ワークショップ、また、次代に向けた出発を期してのシンポジウムなどを開催し、約800人の来館者を得て地域の社会基盤の一つとしての認識を新たにした。またピッコロ劇団による高校・大学等での演劇や表現力向上の指導、子ども向けワークショップ、体験型実技教室など、演劇の力を活かした人材育成を推進した。

令和元年度

演劇学校本科35名・研究科26名、舞台技術学校22名が修了、舞台芸術活動を通して将来の演劇創造者や地域に根ざした文化活動のリーダーとして活躍できる人材の育成を推進した。またピッコロ劇団員による高校・大学等での演技や表現力向上の指導、子ども向けワークショップ、体験型実技教室(狂言)など、演劇表現の力を活かした人材育成を行った。

令和2年度

演劇学校(本科・研究科)及び舞台技術学校は、コロナ禍により、9月からの半年間の短縮カリキュラムによる体験プログラムやオンライン授業に変更して実施。演劇学校・本科19名、演劇学校・研究科31名、舞台技術学校14名が修了。半年間の体験プログラムでは、定員を抑制、演劇・舞台技術の基本や楽しさを重点的に教え、継続学習に繋がるよう動機付けに重きを置いて実施し、参加者の演劇への興味や学習意欲が深まった。

また、あつまれ!ピッコロひろばについては、コロナ禍により2か所での実施に留まり、毎年指導を行ってきたワークショップや体感!ピッコロシアターも中止を余儀なくされた。

令和3年度

演劇学校本科34名・研究科14名、舞台技術学校25名が修了した。感染症対策に万全を期しながら、通年で舞台機構や舞台空間を使った実践プログラムを通じて舞台表現や地域づくりに貢献できる人材の育成に継続して努めた。

2年度においては、コロナの影響で半年間の体験プログラムに留まったが、3年度においては、通年での充実したカリキュラムを編成して事業を実施した。

また、ワークショップ、ピッコロフェスティバル、あつまれ!ピッコロひろば、実技教室、文化セミナーなど、コロナ禍で参加者は減少しつつも多彩な事業を展開した。

4 誰もがアクセスできる社会の実現に向けたコミュニティの創生【地域創生】

ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージ、プロデュース公演での視覚障害者のための音声ガイド付き上演や、聴覚障害者のための字幕付き公演など、障害者への鑑賞サポートを継続実施した。

これまでのピッコロシアターの鑑賞サポートの取組が先導事業として評価され、令和3年3月に改訂された「兵庫県芸術文化振興ビジョン」においても、誰もが芸術文化に親しめる多様な“場”の育成・拡大が必要として、鑑賞サポートの重要性が盛り込まれた。

平成30年度

幅広い世代への鑑賞や舞台芸術の体験機会を提供、青少年・子どもを育む広場としての機能強化に努めた。社会包摂の推進を目指し、劇場/劇団公演アクセシビリティの向上を図った。「わくわくステージ」では初めて盲学校の団体鑑賞を実施した。音声ガイド付き公演、ピッコロ文化セミナーでの字幕スーパーや手話通訳を実施し、聴覚障害者向けのポータブル型字幕サービスを提供できた。

令和元年度

ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージでの聴覚障害者のための字幕付き公演(兵庫県立姫路聴覚特別支援学校生が鑑賞)や、プロデュース公演での視覚障害者のための音声ガイド付き上演など、

障害者への鑑賞サポートを実施。

これまでの聴覚・視覚障害者のための鑑賞サポート等が評価され、「ひょうごユニバーサル社会づくり賞(団体賞)」を受賞した。

令和2年度

コロナ下での実施となったが、引続き、ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージでの視覚障害者のための音声ガイド付き上演やプロデュース公演での聴覚障害者のための字幕付き上演など、障害者への鑑賞サポートを実施した。

令和3年3月に改訂された「兵庫県芸術文化振興ビジョン」においても、誰もが芸術文化に親しめる多様な“場”の育成として、鑑賞サポート事業が先導的な取組として取り上げられた。

令和3年度

誰もが、鑑賞にアクセスできるよう、音声ガイドや字幕付き公演などの鑑賞サポートを実施したほか、手で触れて舞台をイメージできる触図での事前解説やバックステージ解説での手話通訳、盲学校生徒向けに劇団員が作成した解説CDの事前提供など多様なアクセシビリティに配慮した鑑賞サポートを展開した。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

1 文化的意義

(1) 劇団による上質な演劇鑑賞機会の提供

劇団公演では、岩松了劇団代表による脚本演出公演やフランス古典のモリエールの関西弁での上演、地域に題材をとった公演の実施などに取り組んだ。いずれも鑑賞者アンケート調査の満足度も高く、演劇評論家からも高い評価を受けた。

また、ピッコロ劇団員が兵庫県芸術奨励賞を受賞(令和3年度三坂賢二郎)するなど、劇団員の演技力も高く評価されており、外部での公演にも多数出演するなど、わが国の演劇文化の水準の向上に寄与した。

なかでも、令和3年度に上演した土田英生氏(劇団 MONO)がピッコロと19年ぶりのタッグのもと、作・演出を手掛けた「いらぬものだけ手に入る」は、令和3年度の文化庁芸術祭賞「大賞」を受賞した。これは、劇団のアンサンブルの良さと劇団員の演技力が高く評価されたものであり、ピッコロ劇団の文化的意義を全国的に大いにアピールできた。

(2) 演劇文化の普及推進

開館記念日(8月19日)を中心に、約1カ月にわたり、地域で演劇などの創作活動に取り組む若者達の成果発表と交流の場として、施設を無償提供するピッコロフェスティバルを毎夏、開催し、地域文化の活性化に寄与した。(令和2年は、大規模改修工事による閉館のため、取り止め。)

中学生を対象とする「わくわくステージ」では、平成30年度～令和3年度の間で、延べ144校、15,355人の生徒の鑑賞参加があり、さらに、ピッコロ劇団員によるワークショップの開催や学校での指導など、演劇の人口の裾野を大きく広げることができた。

2 社会的意義

(1) 舞台芸術の担い手の育成

演劇学校・舞台技術学校は、週2回・夜間開講で、社会人や学生でも無理なく通え、日本を代表する演劇人や舞台技術者による特別講義や実際の舞台機構を使った実践的な授業や充実したプログラムに定評がある。これまで約2,800名の卒業生を輩出、地域文化活動のリーダーやプロの技術者として活躍している卒業生も多い。舞台芸術の普及・人材育成の歩みを継続。

(2) 社会包摂の推進

ピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロわくわくステージ、プロデュース公演での視覚障害者のための音声ガイド付き上演や聴覚障害者のための字幕付き公演は、障害者の鑑賞体験機会の拡大に先導的な役割を担っている。

また、犬と人間の共生をめぐる物語「夢をみせてよ」公演にちなみ、介助犬の活躍をテーマにした紙芝居を作成・上演し、補助犬制度への理解普及に協力した。

(3) 地域のひろばとしての機能の発揮

乳幼児・家族～幼児・小学生～中学生～高校生・大学生・大人～ファミリーと、乳幼児から大人まで幅広い世代に対してバラエティに富んだ事業を提供した。

シアタースタート(乳幼児・家族)、あつまれ!ピッコロひろば(小学生)、おでかけステージ(小学生)、わくわくステージ(中学生)など世代毎に特色ある鑑賞体験事業を実施した。企業や県とも連携し、経済支援が必要な家庭やこども食堂を利用する子どもたちをファミリー劇場等へ招待するなど、経済環境に関わりなく、演劇の楽しさを実感できる機会を提供することができた。

3 経済的意義

舞台芸術の創造発信やその鑑賞機会においても首都圏への集中が進む中、劇団・学校を附設する劇場が地域(兵庫/尼崎)に存在することで、関西地域のニーズに密着した事業活動・運営を展開してきた。また、舞台製作に当たっても、兵庫県や関西で活躍する演出家・美術家などの作り手や俳優陣とともに創り上げることに配慮して、舞台事業関係者に兵庫県や関西での活躍の場を維持・提供し、地域の活性化につなげている。

(2) 有効性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

コロナ禍においても感染対策に万全を期しながら、「妥当性」の項目において、記載したインプットを用いることで、計画したアウトプットを得るとともに設定したアウトカムの発現を目指したが、一部の項目においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、目標を達成できないものもあった。

(A) 地域において質の高い創造の場を確保・持続

安定的な劇団公演の継続に努め、劇団公演数の確保と内容充実を図り、平成30年度～令和3年度において、本公演、プロデュース公演、ファミリー劇場、オフシアター、おでかけステージ、わくわくステージを実施。鑑賞劇場事業と合わせ、令和2～3年度については、コロナ禍の影響もあったが、年間6～10事業(30～48公演)を実施した。上質の創作上演により、地域における演劇鑑賞機会を提供できた。

また、令和3年度に実施したピッコロ劇団第71回公演「いらぬものだけ手に入る」では、文化庁芸術祭賞「大賞」(演劇部門・関西参加公演の部)を受賞した。

さらに、ピッコロ劇団員が令和3年度に「兵庫県芸術奨励賞」、令和元年、2年、3年にそれぞれ「関西現代演劇俳優大賞」を受賞するなど、高い評価を得、質の高い創造の場を提供できている。

(B) 住民の鑑賞活動の拡大

平成30年度～令和3年度における公演に対する満足度については、コロナ禍で制約がある中でWebアンケートの導入など、工夫をしたが、十分な標本数が得られなかったものの、毎年度満足度について平均で88.5%以上から「よかった」との回答があり、多くの住民に満足をしていただけた。

(C) 地域におけるアーティスト活動の場の提供による人材流失の防止と地域舞台芸術の活性化

例年2月のピッコロシアタープロデュース公演では、ピッコロ劇団員に加え、オーディションにより関西で活躍する俳優陣も毎回約8名参加し、劇団員と関西俳優陣が互いに刺激しあい、関西の演劇人の交流による関西演劇文化の向上に寄与した。

また、令和元年度は、宝塚市で活躍し、身体障害者補助犬法成立に大きな役割を果たした介助犬シンシアをテーマとした第68回公演ピッコロシアタープロデュース「夢を見せてよ」や令和2年度の第69回公演ピッコロシアタープロデュース「波の上のキネマ」は、地元尼崎の小さな映画館をめぐる波乱の小説「波の上のキネマ」(増山実氏(集英社))上演など、地域ゆかりの舞台化により、地元の方々の観劇を掘り起こすことができた。

なお、演劇公演の入場者数については、コロナ禍で大幅に減少し、4年間平均で10,726人となった。

(D) 経済的な支援が必要な子ども達に企業助成等により鑑賞機会を提供、社会と子どもをつなぎ、鑑賞活動を拡大

地元企業からの助成や行政機関との連携により、地元の子どものピッコロ劇団ファミリー劇場やピッコロ劇団おはなしBOXに子どもや親子を招待し、鑑賞機会を提供した。

コロナ禍により鑑賞者が大きく減少したため、目標には届かなかったが、4年間で1,874人、助成開始前を上回る年平均で約470人の参加を得ることができ、支援が必要な子ども達に演劇の鑑賞機会を拡大することができた。

(E) 将来の演劇創造および地域コミュニティづくりに貢献する人材を育成

演劇学校、同研究科、舞台技術学校を運営し、舞台芸術活動を通して将来の演劇創造者や地域に根ざした文化活動のリーダーとして活躍できる人材の育成を推進した。

令和2年度はコロナ禍による施設の閉鎖などにより、通常のカリキュラムの維持は困難であったが、カリキュラムを工夫した半年間の体験プログラムとし、参加者数も45人と例年の半数に抑制して実施した。平成30年度以降の修了者の中からも、劇団等の劇団員、研修生として4人が活躍、劇場・ホールのスタッフとして、42名が従事するなど、演劇や地域文化の担い手の人材育成、特に、関西地域における人材育成に大いに貢献している。

(F) 市民の文化活動を支援することで裾野を広げ、鑑賞者・活動者を拡大

8月にピッコロフェスティバルを開催し、地域の芸術文化団体やグループに日頃の練習の成果発表と交流の場を、また、地域住民には気軽に舞台芸術に触れられる機会を提供し、地域文化の活性化につなげていくことができた。平成30年度は98団体、6,447人、令和元年度は75団体5,252人の参加があったが、令和2年度はピッコロシアター大規模改修工事(7・8月全館休館)及びコロナ禍のため開催を中止し、3年度は感染対策を講じながら、参加人数・団体数を見直し、鑑賞者数も収容人数の半分に制限し、過密にならない日程調整を行って実施し、38団体2,317人の参加があった。

地域団体や貸館利用者のニーズも企画に反映し、また、上演に際して、アマチュアの参加団体がプロの舞台技術者に相談し、アドバイスを受ける場面も多い。また、地元の手話サークルや高校生のボランティア部、大学幼児教育保育科の学生等、芸術文化団体以外の参画も多く、鑑賞者以外の参加者の拡大を図ることができた。

また、30年度はピッコロ室内楽サロン6、ピッコロ実技教室1、令和元年度は室内楽サロン5、実技教室2、2年度は室内楽サロン3、実技教室2、3年度は室内楽サロンに替えて、生演奏で紙芝居「グッドガール シンシア」を実施、実技教室は3事業を実施した。

(G) 気軽に一流アーティストの世界に触れることで、舞台芸術への興味を拓き、鑑賞者を拡大

著名な舞台人による講演、専門家による伝統芸術の紹介・解説などの教養講座を年2回開催し、舞台芸術への関心を高め、地域文化の振興を進めた。

平成30年度、令和元年度で、1回当たり、345人と目標に近い人数となったが、令和2年度はコロナ禍により、1回だけの開催となり、座席制限も行ったため、125人の参加となった。令和3年度も座席数を50%以下に絞ったため、2回とも約160人の参加となったが、コロナ禍中にもかかわらず、申し込み数は定員(例年の半数に設定)を超えた。特に100回記念となった小曾根真氏の回は、受付開始直後に定員を大きく超えるなど、注目度も高く、客席数の半数制限をせざるを得なかったことを残念がる声もあがった。

(H) 障害の有無や年齢など、居住地域に関わらない芸術体験・鑑賞機会の提供

バリアフリー事業として平成30年度5事業、令和元年度3事業、令和2年度5事業、令和3年度3事業実施した。

視覚や聴覚に障害のある方も、鑑賞にアクセスできるよう、音声ガイドや字幕付き公演などの鑑賞サポートを実施したほか、手で触れて舞台をイメージできる触図での事前解説やバックステージ解説での手話通訳、盲学校生徒向けにキャストの劇団員が作成した解説CDの事前提供など多様なアクセシビリティに配慮した鑑賞サポートを展開した。これらの成果により、当劇場は令和元年7月に「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」(兵庫県知事表彰)を受賞した。

また、居住地に関わらない芸術体験、鑑賞機会を提供するために、ピッコロ劇団が市町ホールや小学校へ出向き、公演を実施した。30年度6公演、元年度7公演、2年度1公演、3年度3公演を実施し、生の演劇を見る機会の少ない地域から高評価を得た。

(I) 地域におけるコミュニティ再生などの活動に取り組む体制づくりの促進

演劇の方法によるゲームや表現遊びを通して、子ども達にコミュニケーションの大切さ、表現することの楽しさ、グループ活動や合意形成の達成感を発見・体験してもらうことを目的にピッコロ劇団員が県内各地の小中学校などと連携して、県内各所にアウトリーチ活動として出向いていく演劇の手法を取り入れたワークショップを実施した。教育現場との信頼関係も緊密になり、新たな派遣に繋がっている。

平成30年には24回実施できたが、コロナ禍の影響により中止があり、元年度14回、2年度6回、3年度は7回の開催となっている。

(J) 事業内容や検証内容を広く他館とも共有し、事業の効果を波及

(H)に記載した鑑賞サポート事業の開催にあたっては、(一社)日本障害者舞台芸術協働機構の南部充代表理事を講師に招き、職員、劇団員、舞台スタッフを対象にしたバリアフリー研修を開催するとともに、NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークの廣川麻子理事長や岐阜ろう劇団いぶきの河合依子代表との意見交換を通じて、事業のブラッシュアップを行った。

平成30年度の音声ガイド付き公演では、日本ライトハウス情報文化センターの林田茂氏を講師に、鑑賞とレクチャーを行い、行政、文化財団・ホール・演劇関係者が参加し、専門的な助言を得た。

また、公演時には、他館や他の劇団にも視察を呼びかけ、情報を共有した。

こうした取り組みが、例えば、宝塚歌劇団関係者の視察、意見交換から宝塚歌劇公演におけるタブレットによる字幕導入につながった。

また、新型コロナウイルス感染防止対策については、当該地域の公立文化施設協会を通じて、意見交換、情報共有を実施した。

(K) 専門家などと連携し、地域が抱える社会づくりに取り組み、効果を検証、発展

鑑賞サポート事業の実施にあたり、音声ガイドについては日本ライトハウス情報文化センターの林田氏や（一社）日本障害者舞台芸術協働機構の南部氏の助言を受け、また、字幕についてはNPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークの舞台手話通訳者等に助言を受け、作成している。

さらに、地域の聴覚障害者や視覚障害者にモニターとして、リハーサルに参加してもらい、感想や意見をもらい、字幕や音声ガイドを完成させている。

終演後も、視覚障害者、聴覚障害者にアンケートを実施し、生の声を聴取することで、事業への反映を図っている。

《対応例》

「歌詞については、ずっと♪表示があった方が歌が続いていることが分かりやすい」という意見があり、「歌詞には全て♪マークを付けることとした。」

「舞台に動きがないシーンは字幕も動きがなくてよいが、静寂が長い時は、「静寂」と表示したら安心」という意見があり、「暗転が長いところは、聞こえない人は不安になるので、可能な範囲で「静寂」や「暗転」などの文言を入れるよう改善した。」

また、劇団公演については、永田靖委員、米谷尚子委員を始めとする劇団企画運営委員会、九鬼葉子委員、畑律江委員を始めとする能力評価委員会を設置し、専門家の意見を劇団の公演、質の向上に反映させている。

(3) 効率性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

平成30年度及び令和元年度については、計画した事業期間内に、ほぼ計画通りに事業を実施することができ、ほぼ所定のアウトプットを得ることができたが、令和2年度及び令和3年度については、計画事業の実施に努めたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業中止や席数制限、参加者の減少など影響を大きく受けた。

【平成30年度、令和元年度】

ほぼ予定どおり劇場・劇団事業を実施した。

開館以来の40年で培った地域でのネットワークや人的資源等を活用し、年間を通して計画的かつ相乗的な効果が見込める事業運営に努めた。

令和元年度3月の「子どもと楽しむ落語会」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止とした。

【令和2年度】

コロナ禍で4月～6月を中心に、一部の公演・事業について中止・延期となったが、当館の特性（開館以来の42年で培った地域でのネットワークや人的資源等）を活かして、年間を通して、最大限、計画的かつ相乗的な効果が見込める事業運営に努めた。

わくわくステージでは、ファミリー劇場の演目を活用することで、経費を抑えつつ、ロングラン上演、また、第69回本公演『波の上のキネマ』では、県(阪神南県民センター)と連携して、上演に先立ち、原作者や演出家、尼崎市内の映画館関係者、キャストのピッコロ劇団員によるトークイベントを開催し、上演への機運を高め、地元からの集客に繋げた。

しかしながら、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、客席数制限や学校の参加取り止めがあり、大半の事業で入場見込みを下回る事となった。

演劇学校・舞台技術学校は、コロナ禍により、定員も約半数に抑えた半年間の体験プログラムとなったが、インターネットによる開講前の予習動画配信や基礎知識の習得に重点を置いた新たなカリキュラム編成などを行い、学習内容の質・量を落とさない取組に努めた。

【令和3年度】

上半期については、2年度に引き続き、席数制限で対応したが、下半期からはコロナ感染症予防対策の徹底を図りながら、席数制限を解除しての運営に努めた。令和2年度に中止となった「オフシアター」、「第67回公演」の演目を上演することができた。当初計画からは、シアタースタートは乳児との接触が多い演目を取り止め、わくわくステージは13校が観劇中止、ファミリー劇場ではオーディションによる子ども出演を取り止め、ピッコロフェスティバルでは、一部プログラムの変更・中止を行ったが、各事業メニューについて状況に応じた対応を行ったことにより、概ね大半の事業は予定通り実施できた。

【コロナ禍の影響について】

令和2年度について、兵庫県域の新型コロナ緊急事態宣言に基づく臨時休館(R2.4.8～5.31)及び劇場本館の改修工事に伴う休館(R2.7.1～8.31)の約4か月の休館となったが、コロナ禍での制約を受けながら、本来の姿での劇場事業の維持に最大限努めた。

感染予防対策として、定員半数の席数制限などを行ったため、当初想定した収益率に達しなかった公演等も多かった。

令和3年度も引き続き、席数制限で対応したが、下半期からは、コロナ感染予防対策の徹底を図りながら、席数制限を解除しての運営に努めたものの、観客の観劇心理はなかなか回復せず、集客に大きな影響を受けた。

今後、「ポストコロナ」に向けて、動画配信などでのアピール、新たな客層の発掘など、ピッコロシアターファンの獲得に努力していく。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

事業費について、2年度及び3年度については、コロナ禍の影響を大きく受け、観客数、事業参加者数が大きく減少したものの、席数の制限、出演者全員のPCR検査の実施等できる限りの対策を行い、事業を実施した。

【30年度実績】助成金交付要望時予算 166,004 千円

収支決算 108,693 千円

収支予算との差は、 $\Delta 35.0\%$ となった。

劇団公演について、要望時には、出演者数、舞台美術や演出内容、それに伴うスタッフ数が未定であったため、過去の公演を元に積算していたが、演出プランやスタッフ構成が確定したことにより、要望時の予算より、低減した。

また、わくわくステージについては、要望時において公演先、公演数が未定であったため、過去の公演をもとに積算していたが、日程の確定、スタッフ等の構成確定により、低減した。

【元年度実績】助成金交付要望時予算 132,242 千円

収支決算 102,3219 千円

収支予算との差は、 $\Delta 22.6\%$ となった。

劇団公演について、要望時には、出演者数、舞台美術や演出内容、それに伴うスタッフ数が未定であったため、過去の公演を元に積算していたが、演出プランやスタッフ構成が確定したことにより、要望時の予算より、低減した。

また、第66回公演「夢をみせてよ」については、新作書き下ろしであり、作品の構成に変更が生じたことから、大きく制作費が抑えられた。

【2年度実績】助成金交付要望時予算 123,674 千円

収支決算 70,575 千円

収支予算との差は、 $\Delta 42.9\%$ となった。

コロナ禍の制約のもと可能な範囲での本来の姿での劇場事業維持に最大限努めた。

要望時に登録した16事業のうち、補助申請前に2事業を中止、申請後に4事業を中止、2事業は一部中止となった。

実施した事業も感染予防対策のため、観客数、事業参加者数を概ね半数以下に抑えて、実施したため、大幅に減少した。

【3年度実績】助成金交付要望時予算 123,763 千円

収支決算 93,078 千円

収支予算との差は、 $\Delta 23.6\%$ となった。

令和2年度に続く、コロナ禍のもと、席数制限を実施し対応したが、下半期は感染予防対策の徹底を図り、席数制限を解除して事業運営に努めた結果、概ね大半の事業は予定通り実施できたものの、集客は大きな影響を受けた。

劇団公演について、要望時には、出演者数、舞台美術や演出内容、それに伴うスタッフ数が未定であったため、過去の公演を元に積算していたが、演出プランやスタッフ構成が確定したことにより、要望時の予算より、低減した。

わくわくステージについては、要望時において公演先、公演数が未定であったため、過去の公演をもとに積算していたが、コロナ禍による公演数の減少、日程の確定、スタッフ等の構成確定により、低減した。

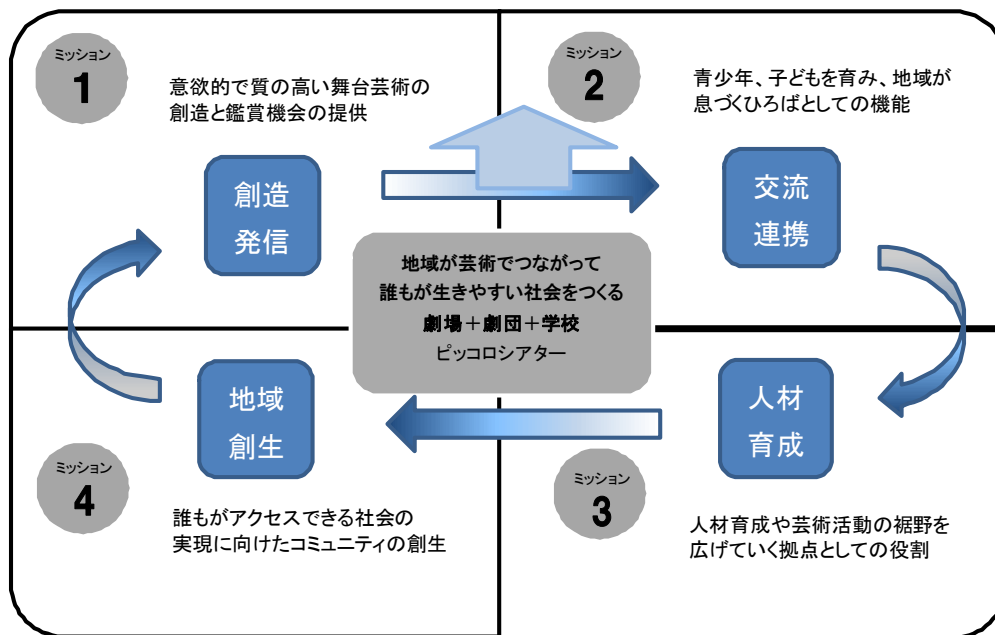
(4) 創造性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

兵庫県立尼崎青少年創造劇場は、〈劇場・劇団・学校〉を併せ持つ全国唯一の公立施設である。この強み(独自性)を活かし、3つの要素を相互に関連させながら、4つのミッションの実現を目指して、独創性、新規性、先導性に優れた事業を展開した。

劇作家・演出家・俳優の岩松了を代表とする創造集団である「ピッコロ劇団」は、劇場における質の高い公演や中学生を対象とした演劇体験事業、さらに、地域で各種ワークショップ等を実施するとともに、演劇学校へ講師としても参加している。本物の劇場で学ぶことができる演劇学校・舞台技術学校では、舞台芸術の人材を育成し、卒業生はピッコロ劇団を始めとする全国各地の劇団や文化施設や教育現場で活躍している。さらに劇場公演では、ピッコロ劇団員が音声ガイドや字幕作成に携わる鑑賞サポートを実施している。このように三つの要素を有機的に連携、関連させた取り組みは他の施設に類をみないものである。



1 兵庫県立ピッコロ劇団公演

(1) 独創性

① 地域に題材をとった公演の開催

ピッコロ劇団では、これまでも平成26年第48回公演「お家さん」や平成30年第60回公演「マルーンの長い道～小林一三物語～」のように、地域ゆかりの人物、題材を取り上げ、地域の活性化と演劇ファンの拡大に努めてきた

平成31年第63回公演「マンガの虫は空こえて」では、地元宝塚市出身で世界的クリエイターの手塚治虫の初期3作品を原作とした公演を、関西演劇シーンを牽引する岩崎正裕(劇団太陽族)の演出、関西で活躍する客演陣(8名)の参加も得て上演し、1,755人の観客を集め好評を得た。

令和元年第66回公演「夢をみせてよ」では、地元宝塚市で活躍した介助犬シンシアを題材にした公演を上演し、1,406人の観客を集め好評を得た。公演の関連企画として劇団員が絵と台本を手掛けた紙芝居「グッドガールシンシア」を制作し、地域の小学校や図書館での「お話し会」やシンポジウムで上演し、介助犬の認知度の普及にも貢献した。

令和2年第69回公演「波の上のキネマ」では、地元尼崎市ゆかりの小説を舞台化。増山実原作「波の上のシネマ」を岩崎正裕(劇団太陽族)が脚本監修・演出し、ピッコロ劇団員に加え、オーディションにより関西で活躍する俳優陣も参加。

また、上演に先立ち原作者や演出家、地元映画館経営者による「『波の上のキネマ』を語る!スペシャル座談会」を開催し、これまで劇場に馴染みのなかった地域の小説ファン・映画ファンなどへもアピールし、

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

上演に向けての機運を高めた結果、1,102人の観客を集め好評を得た。

②時代を反映した公演の開催

令和3年第71回公演「いらないものだけ手に入る」は、土田英生（劇団 MONO）の作・演出で、スペースコロニーというSF的世界に「ロミオとジュリエット」の物語をはめ込み、恋愛の行方を描き、戦争や分断といった現代の世界が抱える課題への問いかけともなった。

令和4年第72回公演「脚気にしやがれ！～近代日本最悪の病「脚気」奮闘記～」は、軍医で作家の森鷗外（森林太郎）を主人公に、明治以降に謎の病とされ翻弄された脚気との闘いを描いた作品を上演。未知の病に翻弄される当時の状況がコロナ禍の現在と重なり、これからも未知の病を克服していくというエピソードが印象的だったと評価された。

(2) 新規性

平成30年第61回公演「蒲団と達磨」は、劇団代表である岩松 了の初期の代表作を上演。岩松自らが30年ぶりに演出するという事で、東京からの来場も多く好評を得た。

令和元年の第64回公演「銭げば!」は、古典喜劇作家モリエールの代表作「守銭奴」の台詞を関西弁に置き換えて上演し、気楽に古典に親しむ機会を提供した。この公演では、「一つの役を複数の役者が演じる」「登場人物の衣装を舞台上で着替えてリレー」「演じていない役者が舞台上で進行を見守りながら参加する」など創作上の試みも行った。このフランス古典を関西弁で届ける取り組みは第2弾として令和3年第70回公演「スカパンの悪だくみ」でも行い、好評を得た。

また、令和3年第71回公演「いらないものだけ手に入る」では、芸術祭大賞を受賞した当該作品を見られなかった方々に受賞を機に改めて見ていただくため、劇団公演としては初めてアーカイブ配信を実施し舞台芸術の発信に努めた。

(3) 先導性

①鑑賞サポート事業

ピッコロ劇団公演では、本公演及び中学生を対象にしたピッコロわくわくステージにおいて、視覚障害者及び聴覚障害者を対象に音声ガイド付若しくは字幕付の鑑賞サポートを導入している。当該事業の特徴は、ピッコロ劇団員自らが音声ガイドの作成、字幕の作成に携わり、現場においてライブでナレーション、字幕操作も担当している。制作に当たっては稽古の段階から参加し、演出の意図や作品性、進行を熟知したうえで音声ガイド台本、字幕を作成し、さらに俳優の稽古に合わせてガイドや字幕表示のタイミング等を精査したうえで公演に当たることができるため、鑑賞者から「わかりやすい」「よく雰囲気伝わる」と高い評価を受けている。

さらに、作品の理解を事前に深められるよう、視覚障害者向けに、キャスト自ら役の自己紹介をした音声CDを事前提供、会場で立体コピーを用いた舞台装置の説明を行うなど、劇場と劇団が一体となったピッコロシアターならではの先導的なバリアフリー公演を開催した。

こうした取り組みは高く評価され、新聞や学会誌でも取り上げられ、当館への視察、意見交換から、宝塚歌劇へのタブレットによる字幕導入につながるなど全国への普及にも一役買った。

②ピッコロわくわくステージ

兵庫県内の中学生を招待し、ピッコロシアター大ホールでの本格的な演劇舞台の鑑賞体験を通して、演劇の面白さを実感してもらうとともに心の豊かさを育てることを目的とした事業を実施。

事前に演目の原作者や時代背景の説明、さらに舞台ができるまでや舞台を支えるスタッフ等について記載したパンフレットを作成配布し学習効果を高めるとともに、終演後には、ピッコロ劇団員（演出・舞台監督）らによる舞台表現・舞台技術などの解説を行うことで、演劇への理解を深めてもらいやすくする取組も実施し、生徒だけでなく参加校の先生からも好評を得た。

③経済的に支援が必要な子ども達に鑑賞機会を提供

地元企業やNPO法人、行政と連携し、経済的支援が必要な家庭やこども食堂を利用する子ども達をピッコロ劇団ファミリー劇場等へ4年間で1,874人を招待し、経済的に支援が必要な子ども達に鑑賞機会を提供した。

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

④関西演劇人との協働

毎年2月開催の公演では、関西で活躍する俳優をオーディションで選出し、共同で舞台を作り上げることで、地域の演劇人に活躍の場を提供するとともに、ファンの拡大を図った。

また、令和2年第66回公演「夢をみせてよ」の演出に内藤裕敬、平成31年第63回公演「マンガの虫は空こえて」及び令和3年第69回公演「波の上のキネマ」の演出に岩崎正裕、令和3年第71回公演「知らないものだけ手に入る」の演出に土田英生を起用するなど、関西演劇人との協働を進め、地域文化の向上に努めた。

2 ピッコロ演劇学校・舞台技術学校

(1) 独創性

ピッコロ演劇学校・舞台技術学校は、それぞれ昭和58年、平成4年の開設以降、これまでに2,800名を超える卒業生を輩出している。この学校の特徴は、劇場、劇団、学校が一体となり、本物の劇場で本物の機材を用い、劇団員自らも講師を務め、さらに第一線で活躍中の講師から学べるところにある。

演劇学校(本科と研究科)の主任講師はいずれもピッコロ劇団員。そのほか講師には宝塚音楽学校関係者等を迎えるなど、関西で活躍する指導力のある現役の人材を起用。さらに年数回実施する特別講義には、これまで、別役実氏、平田オリザ氏、渡辺徹氏などを迎えているほか、全国の演劇関係者と卒業生のネットワークを活用し優れた授業を展開している。

また、舞台技術学校では、舞台美術、照明、音響の各コースの主任講師などには、関西で活躍する指導力のある現役の舞台技術者を起用。年数回実施する特別講義には、全国の舞台技術関係者とのネットワークを活用し、堀尾幸男氏(美術)、服部基氏(照明)、山北史郎氏(音響)を迎えている。

(2) 新規性

コロナ禍における工夫として、平成2年度は、半年間の短縮カリキュラムとしたため、開講前から予習動画のネット配信を行うなど、参加者の学習意欲の向上につなげた。また、実際の授業においても、マスク着用、十分な距離をとり極力接触を避けるなど従来と異なったスタイルを導入して実施した。

さらに、卒業公演においては、授業時間の短縮による稽古不足や出演予定者の突発的な出席停止の可能性も見据え、代役や場面カットなど演出上でアレンジが利くよう台本を工夫し、作品の質を維持しつつ上演にこぎつけた。

(3) 先導性

ピッコロ演劇学校・舞台技術学校の多くの卒業生がプロやアマチュア劇団での活動はもとより、学校教員、地域の文化施設のスタッフなどとしても活躍している。卒業生が劇団を率い、あるいは参加し、ピッコロシアターなど様々な場所で公演を開催したり、地元阪神地域の高校演劇部顧問の大半が本校卒業生であり、学校演劇の指導にあたるなど地域文化の牽引力となって活躍している。

3 その他の事業

(1) 新規性

ピッコロシアター鑑賞劇場いむろなおきマイムカンパニー「オリンピアの夢」は、東京オリンピック・パラリンピック2020開催決定に想を得て、「劇場で出会う集団マイム劇による演劇とスポーツの融合」をテーマに平成30年度に初演、令和3年に同オリンピック・パラリンピックが延期されたことにより、再演した。演劇、マイム・スポーツの融合による作品は、コロナ禍での上演であったが、ほぼ満席となるなど好評を博した。

(2) 先導性

①幅広い世代への鑑賞機会の提供

シアタースタートは、普段劇場に足を運びにくい乳幼児を持った親子を対象に、良質な作品を創る実績のある表現者を招へい、子育て世代の保護者に子どもと一緒に劇場を楽しむ知育とおでかけ場所を提供するとともに、子育て世代の交流の場としての機能も果たした。

②演劇鑑賞の機会の少ない地域での鑑賞機会の提供

ピッコロ劇団では、地元市町ホールと連携し中学生に生の演劇体験を経験してもらう「市町ホール公演」や小学校に出向き体育館で上演する「おでかけステージ」を実施している。生の演劇を見る機会の少ない地域の生徒や先生から好評を得ており、演劇文化の普及に寄与している。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている(と認められる)か。

1 ピッコロ劇団公演等への評価

(1) 観客の評価

劇団公演における観客アンケート調査の結果は次のとおりであり、安定して高い評価を得ている。

なお、コロナ禍で手配りによる調査に代えてWEBによる調査に切り替えたことにより十分な標本数が確保できなかったことは今後の課題である。

【観客アンケート結果】

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
満足度	87.1%	82.7%	98.1%	94.4%

※ 公演鑑賞後のアンケート結果の満足度については、「とてもよかった」「よかった」「ふつう」「よくなかった」のうち、「よかった」以上の割合

(2) 受賞歴

①平成30年度

- ・劇団代表岩松了がピッコロ劇団の良質な演劇創造活動を主導した功績により兵庫県の文化分野の最高賞である「兵庫県文化賞」を受賞。
- ・ピッコロ劇団第62回公演「小さなエイヨルフ」の舞台装置が高く評価され舞台美術家でピッコロ舞台技術学校主任講師の加藤登美子が「第46回伊藤喜朔賞」を受賞。

②令和元年度

- ・令和元年第65回公演「ブルーストッキングの女たち」の松井須磨子・ノラ役の演技が評価され、ピッコロ劇団員の森万紀が「第22回関西現代演劇俳優賞」を受賞。
- ・令和元年第65回公演「ブルーストッキングの女たち」及びオフシアターVol.35「炎の人-ゴッホ小伝-」が関西の演劇評論家や研究者でつくる十三夜会が月ごとの優秀作品を表彰する「月間賞推賞」を受賞。

③令和2年度

- ・ピッコロ劇団ファミリー劇場「とっととといてよ! シャーロックホームズ」での視覚障害者のための音声ガイド制作など誰もが楽しめる環境づくりへの貢献に対してピッコロ劇団員の風太郎が「第23回関西現代演劇俳優賞大賞」を受賞。
- ・ピッコロ劇団員の田淵詩乃が「とっととといてよ! シャーロックホームズ」でのハドソン夫人役の演技が評価され「第23回関西現代演劇俳優賞奨励賞」を受賞。

④令和3年度

- ・ピッコロ劇団第71回公演「いないものだけ手に入る」が、文化庁芸術祭賞「大賞」(演劇部門・関西参加公演の部)を受賞。
- ・ピッコロ劇団員の三坂賢二郎が出演した数々の舞台での演技が評価され将来の活躍が期待される者に贈られる令和3年度「兵庫県芸術奨励賞」及び「第24回関西現代演劇俳優賞大賞」を受賞。

(3) 評論家等による公演・劇団への評価

ピッコロ劇団公演については、「テアトロ」(2019年3月号)においてピッコロ劇団「炎の人-ゴッホ小伝-」が、2019年上半期ベストプレイとして神澤和明氏(奈良工業高等専門学校教授)から評価、また、「テアトロ」(2022年3月号)においてピッコロ劇団「いないものだけ手に入る」が2021舞台ベストワンとして太田耕人(京都教育大学学長)から評価された。

また、(公社)日本劇団協議会機関誌 join における私が選ぶベストワン2021の団体として、太田耕人(京都教育大学学長)から、「新作、ロシア現代劇、フランス古典喜劇等の多彩で高い水準の公演」、九鬼葉子(大阪芸術大学短期大学部教授)「俳優の層の厚さ。多彩な企画性。各作品魅力に満ち、希望を伝えた」、酒井 誠(演劇制作アドバイザー)から、「2021年上演の「もういちど、鴨を撃ちに」「いないものだけ手に入る」ほか、すべての作品がすぐれていた。」、畑 律江(毎日新聞大阪支社学芸部専門編集委員)から「「波の上のキネマ」、「いないものだけ手に入る」が充実」としてピッコロ劇団を選出していただいた。

演劇批評誌「シアターアーツ2022春66」2021AICT会員アンケートでは、【ベスト舞台】として、太田耕人(京都教育大学学長)からは「いないものだけ手に入る」、菊川徳之助(演劇評論家)からは「もういちど、鴨を撃ちに」、九鬼葉子(大阪芸術大学短期大学部教授)からは「波の上のキネマ」をそれぞれ選出していただいた。

また、九鬼葉子(大阪芸術大学短期大学部教授)からは、【ベストアーティスト】として三坂賢二郎ピッコロ劇団員、【2021年に活躍の目立った新人アーティスト】として金田萌果ピッコロ劇団員を選出していただいた。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている(と認められる)か。

(4) 劇団活動への専門家等の評価(いただいたコメントから一部抜粋・要約)

・酒井 誠(演劇制作アドバイザー)

劇団員による演出も増えてきた。令和3年度は上演した5本の内3本ある。劇団員の演技力も東京の優れた劇団と肩を並べるほど成長してきている。ピッコロ劇団はその役割に置いても芸術的創造発信を基盤としての地域へのアウトリーチ活動、学校への講師派遣や障害者対策事業などにおいても、全国の手本となるような社会貢献活動を行っている。初代の秋浜悟史、2代目別役実、3代目岩松了と代わってきているが、芸術創造活動や地域への社会貢献は継続し持続して進化している。ピッコロ劇団は日本型芸術創造集団として今後も進化しつづけていくと思う。

・杉本了三(劇団 昴 監事)

コロナ禍にもかかわらず上演プラン通り発表を続け劇場への関心を切らさなかったことは劇団・劇場活動にとって大事なことだった。団員による演出も増えてきた。世代別の人材が揃いどの様な演目にも対応可能な態勢となり近年の舞台の出来栄は評価する人も多くなってきた。演技舞台技術双方の学校も根気よく続けておられることもその一因であると思う。

英米などと同様芸術監督制で劇団運営しているのはピッコロだけかもしれない。兵庫県が組織化して県の機構の一部に組み込み新しい型の芝居造りに成功したと言っている。

・濱田英世(NPO 法人やんちゃんこ代表理事・元尼崎市教育委員長)

ピッコロ劇団におはなしBOXをやってもらった。自分たちが普段遊んでいる場所にプロの役者さんが来てくれる、そして写真撮影などで親近感が沸き徐々になじんでいった。劇場は意外と多くの人にとっては敷居が高いようで、アウトリーチに来ていただいたのはありがたかった。

これをきっかけに、ピッコロから子ども劇団を作らないかという話があり、ワークショップを2回実施したうえで第一回公演を実施した。子どもの中には、こだわりの強い子や多動気味の子もいるが、劇団員の皆さんはプロとして、それはそれで受け入れたうえで、本人が納得する形で劇に組み入れてくれた。ずっと縄を持って離さない子には、むしろそれを演技として組み入れ、何回も稽古させていた。その様子を見て「あんなに継続して物事に取り組むことができない子が、こんなに何度も繰り返しやるなんて」と親御さんがびっくりされていた。

発達に課題を抱える子や親にとって、いろんな世代の大人と関わる機会となったのも素晴らしい効果があった。多世代でコミュニティが形成された。このような演劇・劇団の効果は当初思ってもみなかった事である。

2 演劇学校・舞台技術学校への評価

ピッコロ演劇学校・舞台技術学校は、それぞれ昭和58年、平成4年の開設以降、これまでに演劇学校本科1252人、研究科737人、舞台技術学校822人、合計2,811名の卒業生を輩出している。その卒業生は、舞台芸術のプロとして劇団や制作会社で働く者、地域の文化施設で文化活動に携わる者、学校現場で演劇を活かした教育活動に携わる者など、全国各地で多彩な活動を展開し、地域文化の担い手として活躍している。

例えば、現在ピッコロ劇団員35名のうち同校出身者は12名で劇団公演やワークショップのほか、高校の非常勤講師などとしても活躍している。また、地元阪神地域の高校演劇部顧問の大半が本校卒業生であり、学校演劇の指導にあたり、その指導を受けプロとして演劇をめざす者が出るなど地域文化の牽引力となって活躍しており、高い評価を受けている。

平成30年度以降の修了者の中からも、劇団等の劇団員、研修生として4人が活躍、劇場・ホールを始めとするスタッフとして、27名が従事するなど、演劇や地域コミュニティづくりの場において、活躍している。

さらに、令和3年4月に芸術文化及び観光の観点から地域の活力を創出する専門職業人の養成を目的に兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学(平田オリザ学長)が開設されたが、その開設にあたりピッコロ演劇学校の運営に永年携わってきた当劇場の職員(尾西教彰)が准教授として参加することとなったのも、当校の運営が教育界でも高く評価されたことの証である。

近年、大学の演劇ゼミ(大阪大学永田教授や大手前大学瀬口准教授など)の推薦や制作会社の社員からの勧めで入学する者も多くなっており、当学校は教育現場や制作現場でも高く評価されている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている(と認められる)か。

3 鑑賞サポート事業

ピッコロ劇団公演では、本公演及び中学生を対象にしたピッコロわくわくステージの一部において、鑑賞サポート事業として視覚障害者及び聴覚障害者を対象に音声ガイド付若しくは字幕付の公演を導入している。事業の実施に当たっては、ピッコロ劇団員自らが音声ガイドの作成、字幕の作成に携わり、現場においてもライブでナレーション、字幕操作も担当している。制作に当たっては稽古の段階から参加し、演出家の意図や作品性、進行を熟知したうえで音声ガイド台本、字幕を作成し、さらに俳優の稽古に合わせてガイドや字幕表示のタイミング等を精査したうえで公演に当たることができるため、鑑賞者から「わかりやすい」「雰囲気がよく伝わる」と高い評価を受けている。

(1) 受賞歴

- ①ピッコロシアターの鑑賞サポート事業がユニバーサル社会づくりに向けた先導的な実践活動を率先したとして「令和元年度ユニバーサル社会づくり賞」を兵庫県知事から受賞。
- ②ピッコロ劇団ファミリー劇場「とっととといてよ! シャーロックホームズ」での視覚障害者のための音声ガイド制作など誰もが楽しめる環境づくりへの貢献に対してピッコロ劇団員の風太郎が「第23回関西現代演劇俳優賞大賞」を受賞。

(3) 専門家による評価(意見交換等から抜粋)

- ・杉本了三(劇団 昴 監事)
障害者のための音声ガイドや字幕サービスは細く長く続けていただきたい。私劇団は一時的には試みても長続きがしません。視覚障害者に劇場で芝居を味わってもらえるのは素晴らしいことで、県立劇団ならではの企画であり徐々に県民に浸透して行って欲しい。
- ・舞台手話通訳士(下坂幸恵、三田宏美氏)
字幕フォントがすごく良かった。劇中劇の場面では字体を変える工夫や効果音や音楽の字幕表現もセンスが良かった。伝えようとする気持ちや舞台への愛情が感じられ、餅は餅屋だと感心した。
- ・日本ライトハウス(馬場 玲衣氏)
役者の声の大きさが文字の大きさに反映されていたこと。一度に何人も発話する時にポンポンとリズムよく字幕が出てきたのはエンタメ性があった楽しかった。
- ・(一社)障害者舞台芸術協働機構(代表 南部充央氏)
全体的に良かった。今後は、音声ガイドではなく音声解説にしてはどうか。風太郎さんのガイドは障害者だけでなく、観劇初心者にも良いサービスになる。例えば歌舞伎の音声ガイドのように付加価値になる。
- ・NPO 法人シアターアクセシビリティネットワーク(代表 廣川麻子氏)
公立劇場が中心となって、利用者の声を大事にしながらサポートを積極的に実施してくださるのは心強い。
- ・NPO 法人障害者放送通信機構(梅田ひろ子理事)
音声ガイドはとても良かった。広瀬浩二郎先生(文化人類学者・全盲)も高く評価されていた。始まる時のタイミングも素敵。ライブの迫力を楽しんだ。

(4) 利用者の評価(アンケートより)

- ・字幕の出るタイミングがすごく良かった。わかりやすく物語に引き込まれた。
- ・障害者の娘と観劇して親子で感動を共有することができた。
- ・字幕があってストーリーの展開がわかりやすくてとても良かった。
- ・障害者にとってもこれなら楽しめる。あまり機会がないので良い。

(5) 全国への普及

当館の取組みは、高く評価され、(公社)全国公立文化施設協会発行の「劇場・音楽堂等アクセシビリティ・ガイドブック」において取組事例として紹介されているほか、月間公明「文化の現場を歩く」において静岡文化芸術大学松本教授によって取り上げられ、さらに、令和元年7月4日付け点字毎日新聞においても紹介されるなど先導的な事例として全国で紹介されている。

また、担当者が日本アートマネジメント学会第22回全国大会分科会(令和2年12月13日)において、鑑賞サポート事業の取組みを発表した。学会誌「アートマネジメント研究第22号」(2022年3月31日発行)において、鑑賞サポート事業の実践報告が掲載された。

以上の例のように、事業の実施により、上質な公演創造は令和3年度文化庁芸術祭大賞の受賞など全国的な高い評価を得て関西の演劇界をリードしているほか、演劇学校・舞台技術学校卒業生の全国での文化の担い手としての活躍、先導事業としての鑑賞サポート事業の全国への普及推進など、劇場、劇団、学校が一体となったその取り組みは、唯一無二のものであり当劇場の高い評価につながっていると認識している。

(5) 持続性（平成30年～令和3年度 4か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

1 事業運営

兵庫県芸術文化振興ビジョンを踏まえ、事業運営方針①上質な演劇を創造する②感動を共有できる人と場を育てる③演劇の力を活用して地域づくりを進める④幅広い参画と協働のもとに取り組みを進める を定め、文化庁劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業の助成事業の支援を受け、4つのミッションのもと事業展開を図った。事業運営に当たっては、劇場運営委員会、ピッコロ劇団企画運営委員会、ピッコロ劇団能力評価委員会を設置し、専門家や地域団体等からの意見や助言を得て事業を運営した。

コロナ禍にあっても、工夫をこらしできるだけ生の舞台芸術を届けるという方針のもと事業計画の実施に当たった。

2 経営戦略

ピッコロ劇団や演劇学校・舞台技術学校を運営するための高い専門性、経験、人材等が評価され、兵庫県から令和3年度からの3年間についても引き続き指定管理を受託した。文化庁劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業の助成に加え、(一財)尼信地域振興財団からの助成や日興油脂等地元企業や地元行政からの支援、ピッコロ劇団の後援組織「ピッコロサポートクラブ」の応援などを活用し、長期的、安定的な経営に当たっている。

※ピッコロサポートクラブ

ピッコロ劇団/劇場の活動を地域で支援しようと、平成8年に尼崎商工会議所等が中心となって設立された後援会組織で、現在の会員数（R4.3）は個人303人・法人33団体での構成。年間を通じて公演招待・割引・優先予約等の特典を用意するほか、劇団員との交流会や稽古見学会、機関誌「into」の発行等を通じて、創造の現場を身近に体感できる機会を提供、地域の応援団として定着している。

3 人事戦略

組織体制としては、正規職員数を維持（52.1%、令和4年4月1日現在）するとともに、定年退職者の再雇用や劇場勤務・劇団所属経験のある嘱託員の任用、協会内の芸術文化センターなど他施設との人事交流等を図りながら、専門能力の高い職員の確保に努めている。また、職員を各種研修（全国公立文化施設協会や(一財)地域創造、兵庫県職員研修など）へ積極的に参加させるほか、関係機関との連携事業への参加・協力等を通じて職員のスキルアップを図っている。

4 ネットワークの構築

(1) 教育機関（区市町教育委員会など）や行政機関

- ・小学校：演劇体験WS（あつまれ！ピッコロひろば）、劇団公演鑑賞体験（おでかけステージ）
- ・中学校：劇団公演鑑賞体験（わくわくステージ）、職業体験（トライやる・ウィーク）
- ・高校・大学：インターンシップ、見学、演劇指導やWS
- ・行政機関：職員研修WS

(2) 劇場・音楽堂等間のネットワーク：阪神公立文化施設協議会（幹事館：兵庫県立芸術文化センター）

(3) 兵庫県、尼崎市、地元関係団体、地元企業等（普及啓発、子どもたちの劇場招待など）

(4) 日本劇団協議会、兵庫県劇団協議会への参加：日本劇団協議会による県内公共団体での外国人対象WS（やってみようプロジェクト）やファシリテーター育成WSについてピッコロ劇団が協力

(5) 日本芸能実演家団体協議会（芸団協）や日本演出家協会（関西地域でのシンポジウムやWS協力）

(6) 早稲田大学演劇博物館（特別展“別役実のつくりかた”への出展協力）

(7) (社協)日本ライトハウス、(一社)障害者舞台芸術機構、NPO法人シアターアクセシビリティネットワーク、兵庫県難聴者協会、尼崎視覚障害者協会などとの鑑賞サポート事業における連携

(8) 神戸演劇鑑賞会、兵庫県子ども文化振興協会、尼崎子ども劇場との連携

5 施設の維持管理

(1) 令和元年度から2年度にかけて大規模改修工事を実施。電気、水システムを更新し施設の長寿命化を図ったほか、大ホール内への障害者等対応エレベーターを新設、舞台美術製作を行う美術工房や開架式の図書閲覧・交流スペースの設置などにより、利用者の利便性向上を図った。

(2) 令和2年度から3年度にかけて、コロナ禍へ対応するため、館内の抗菌コート処理、Web配信に対応するためのWiFi環境の整備、劇団稽古場の空調設備の更新など感染対策に配慮した環境整備を行った。

(3) 令和3年度において、利用者の安全に配慮し、中ホールの作業スペースに墜落防止用器具取付バーの設置や高所作業車の導入を行った。

以上のような取組みにより、持続的な劇場、劇団、演劇学校・舞台技術学校における事業計画の実施が可能であると考えている。

(参考1) ピッコロシアター事業運営方針

①上質な演劇を創造し発信します	専属のプロ劇団を持つ演劇の拠点劇場として優れた舞台作品の創造・発信／ファミリー劇場や学校公演など子ども・青少年向けの作品製作・発信／関西の演劇人材を結集したプロデュース作品の制作、関西の演劇創造の活性化 など
②感動を共有できる“人と場”を育てます	ピッコロ演劇学校・舞台技術学校による地域の芸術文化活動を支える人材の育成／参加型のフェスティバルや実技教室、文化セミナーなど舞台芸術の創造と交流の場の拡大 など
③演劇の力を活用して地域づくりを進めます	舞台芸術を通して、高齢者・障害者・子育て世代など多様な方々の地域コミュニティへの参加の促進／表現力やコミュニケーション力を育むワークショップの実施や教育現場での演劇の活用など地域の未来を担う人材育成に貢献 など
④幅広い参画と協働のもとに取り組みを進めます	舞台芸術を支える多くの方々の参画のもと、行政・自治体、地域文化団体、大学等の教育機関、他の文化施設などとの協働を推進／阪神・淡路大震災時の経験をふまえ、東北との連携をはじめとした広域的な交流を促進 など

(参考2)

委員会名	設立目的	委員数	委員数
劇場運営委員会	劇場・劇団全体の円滑な運営を・るための審議、調査研究	19名	舞台関係者(演劇、アマチュア・青少年、古典、ミュージカル、オペラ・音楽、舞台美術)10名、地元関係者(大学、NPO、尼崎市、県)4名、マスコミ(NHK、神戸新聞)2名、県・財団2名、公募1名
劇団企画運営委員会	劇団公演や普及啓発事業など具体の事業についての企画検討	10名	劇団代・演出家、劇作家、大学教授、新聞社編集委員、演劇ジャーナリスト、財団、県
劇団能力評価委員会	ピッコロ劇団員の資質・能力を評価	6名	劇団代・大学講師(舞台芸術関係)、演劇評論家、劇作家、演出家、新聞社編集委員

(参考3) 兵庫県芸術文化振興ビジョン及び兵庫県芸術文化協会の経営方針等

兵庫県芸術文化振興ビジョン (R3.3改定)	基本目標を「芸術文化立県ひょうご」～芸術文化で人や地域を元気にし、未来を開く社会の実現～に設定。そして基本方向を(1)芸術文化を創造・発信する(2)芸術文化の“場”を育て拡げる(3)文化力を高め、地域づくりに活かす(4)みんなで支え、総合的に取り組む、(5)ポストコロナ社会への対応、と定める。
兵庫県芸術文化協会の経営方針等	経営理念・経営方針を“芸術文化の創造と交流、普及啓発及び学習機会の提供など多様な芸術文化活動を展開することにより、芸術文化の振興を図り、県民文化の向上に寄与するとともに、こころ豊かな人づくりに資する”と定めて事業運営を継続。

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

1 劇場の運営

劇場運営に当たっては、毎年度2回(令和元年度から3年度においてはコロナ禍により一部書面開催)劇場運営委員会を開催し専門家や地元団体等から意見や助言を得て、事業計画に反映させているほか、毎年1回施設利用者にアンケート調査を実施している。これを踏まえ、

- ・大規模改修時の他施設を活用した公演数の維持
- ・楽屋、練習室におけるWi-Fi環境の整備
- ・コロナ禍における公演での電話予約・当日精算システム
- ・見やすいホームページへの改修 などに対応した。

また、鑑賞サポート事業の実施に当たっては、関係団体や実際の利用者からの助言や意見交換を踏まえ、音声ガイドにおける台詞の量、字幕のフォント、色など改善を図った。

2 劇団の運営

劇団運営に当たっては、毎年度2回(令和元年度から3年度においてはコロナ禍により一部書面開催)劇団企画運営委員会を開催し専門家や学識者等から意見や助言を得て、事業計画に反映させているほか、公演ごとにアンケート調査を実施し、さらに能力評価委員による全劇団員の能力評価を実施し、適切な劇団運営に当たっている。

こうした中から

- ・地域に題材をとった公演の実施
- ・アウトリーチやワークショップの重視
- ・古典から現代までバランスのとれた公演ラインナップ
- ・劇団員のモチベーションの向上 などを実現している。

3 学校の運営

学校運営に当たっては、講師や学校生、さらにオープンキャンパス参加者などからの意見を踏まえ、授業内容の改善を図っている。具体的には、

- ・コロナ禍に対応した平成2年度における短縮カリキュラムによる体験プログラムの実施
- ・コロナ禍に対応した授業欠席者Web配信による授業内容の提供
- ・古典芸能(狂言)の授業への導入 など

以上のように、劇団、劇場、学校の三要素について、運営委員会における意見聴取・評価、アンケート調査、専門家からの意見の聴取などを行い事業計画への反映に努めており、コロナ禍での事業実施へも円滑に対応することができた。

今後とも、この体制によりPDCAサイクルに基づき事業を検証して実施していくことにより、持続的なアウトカムの発現・定着を図ることができると考えている。